

## ◎注目の出土遺物

### 銅 鏃 (どうぞく)



銅製の鏃 (やじり) です。第 17 次発掘調査では 20 点が出土しています。過去の調査で出土した銅鏃との合計は 60 点。1つの遺跡としては、全国トップクラスの出土点数です。

また青谷上寺地遺跡出土の銅鏃には様々な形があります。その中には九州・山陽・近畿・東海地方に特徴的な形のものもあり、各地と交流があったことがうかがわれます。

### 貨 泉 (かせん)



方形の孔 (あな) の両脇に「貨」「泉」の文字が記された、中国の新の時代 (AD8～23年) の貨幣です。AD14年に鑄造がはじまり、新が滅び、後漢の時代になっても AD40年まで製作が続いたと考えられています。日本では弥生時代の交易の拠点だったと考えられる重要遺跡から出土する舶来の交易品です。青谷上寺地遺跡からは過去に 4 点が出土しており、合計 5 点になりました。山陰地方で唯一、貨泉が出土する遺跡です。

### ガラス製の玉類



緑色や青色をしたガラス製の玉類は、弥生時代の有力者が身に付けていた装飾品です。中国や朝鮮半島から伝来もしくは国内で再加工したもので、山陰地方では弥生時代後期の墳丘墓を中心に出土しています。第 17 次発掘調査では小玉約 90 点、管玉 5 点、勾玉 3 点などが出土。溶着したガラス粒の塊や素材とみられるガラス片も出土しており、青谷上寺地遺跡でガラス製の玉類が生産されていたと考えられます。

### 石製の 管 玉 (くだたま)



碧玉・緑色凝灰岩製の管玉です。第 17 次調査では、現時点で約 50 点が出土しています。また、管玉に孔をあけるために使用された石針も 3 点出土しました。長さ 8 mm、太さ 2 mm 程度の小さなもので、青谷上寺地遺跡で初めての出土となります。管玉を作るために加工途中の石材も出土しており、調査地周辺で管玉の生産をしていたようです。また透明度の高い水晶を用いた算盤玉 (そろばんだま) も出土しています。

## 鳥取県埋蔵文化財センター 青谷調査室

〒689-0592 鳥取県鳥取市青谷町青谷 667 (鳥取市青谷町総合支所 2 階)

電話 (0857) 85-5011 FAX (0857) 85-5012

ホームページ <http://www.pref.tottori.lg.jp/maibun/> E-mail [maibuncenter@pref.tottori.lg.jp](mailto:maibuncenter@pref.tottori.lg.jp)

Facebook <https://www.facebook.com/yayoi.aoyakamijichi/>

平成 29 年度

あお や か み じ ち い せ き

とっとり弥生の王国

国史跡 青谷上寺地遺跡 第 17 次調査 現地説明会資料

平成 29 年 10 月 7 日 (土)

鳥取県埋蔵文化財センター



### 国史跡青谷上寺地遺跡第 17 次発掘調査

- 調査面積 525㎡
- 調査期間 平成 29 年 5 月 22 日～11 月中旬 (予定)
- 調査主体 鳥取県埋蔵文化財センター
- 調査目的 弥生人の活動の主な舞台となった『中心域』の様子を明らかにする。

## 第 17 次発掘調査の概要

国史跡青谷上寺地遺跡第 17 次調査では昨年度に引き続き、遺跡の「中心域」(弥生人の活動の主な舞台だった微高地) を発掘しています。現在、遺跡の最盛期である弥生時代後期から終末期 (2 世紀後半～3 世紀前半) の地層を掘り下げ、当時の人々の活動の痕跡を調査中です。

## ◎第17次発掘調査の成果

第17次発掘調査では弥生時代後期後葉から終末期の人々の生活の痕跡として土坑（どこう）約350基と焼土面（しょうどめん）2ヵ所を確認しました。建物跡はありませんが、とてもたくさんの遺構が密集しています。

土坑のなかには、たくさんの割れた土器を捨てた穴などがあります。2ヵ所の焼土面は、とても強い火を受けて地面が赤く焼き縮まっており、どのくらいの温度で焼けているのか、どのような目的で火を焚いたのかを、これからの調査で検討したいと考えています。

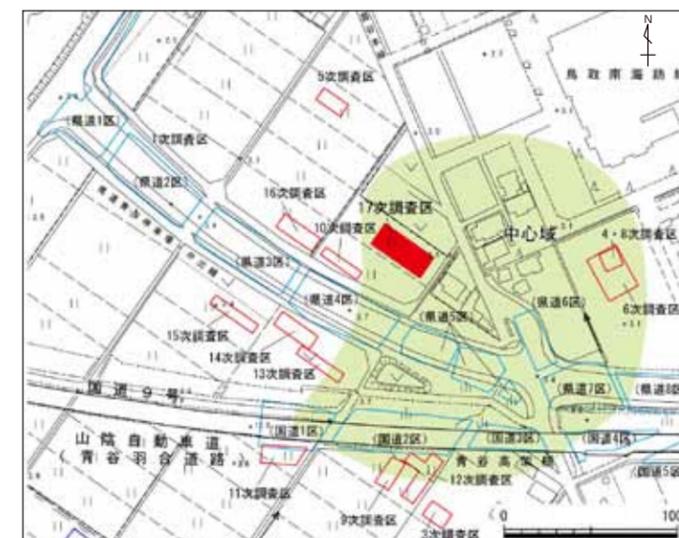
また調査区東側からは、銅製の鏃（やじり）や、有力者が身に着けていた玉類（ガラス製・石製）といった重要な品々が集中して出土しています。



○ガラス製の小玉  
青く輝く美しい小玉がたくさん出土しています。



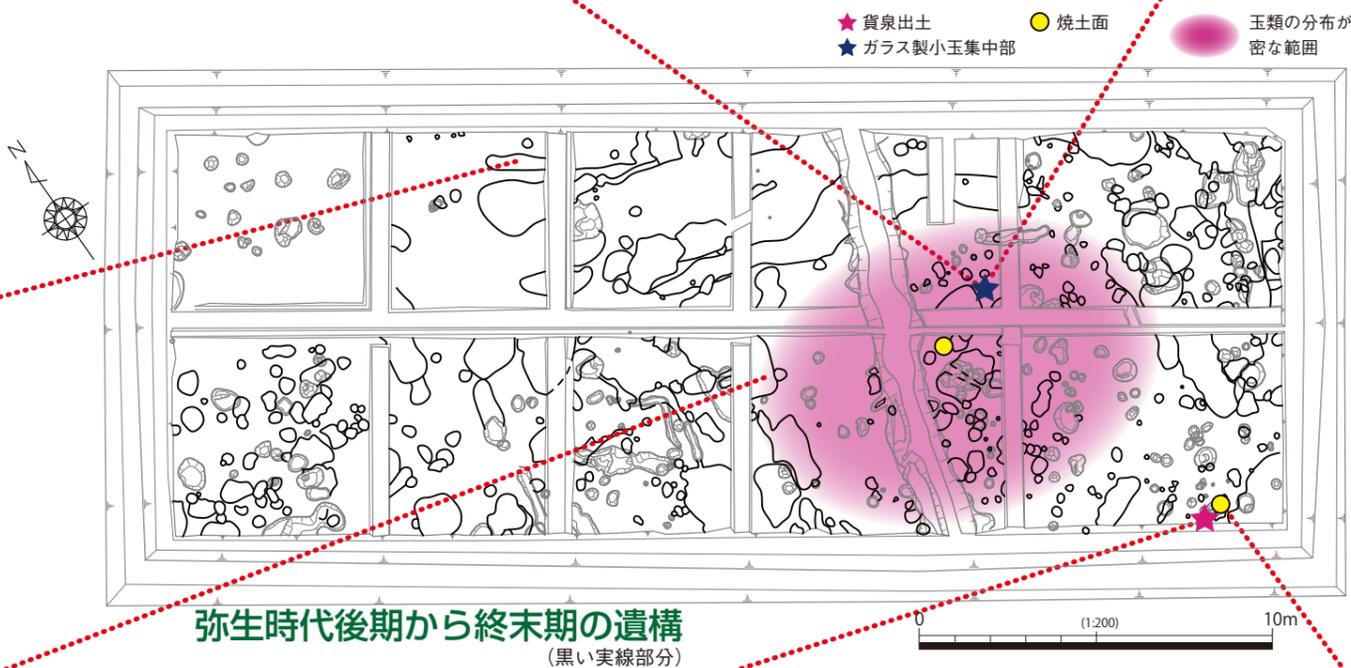
○ガラス製の勾玉  
他にガラス製の管玉も出土しています。



○中心域の範囲と第17次発掘調査地点



○山陰地方に特徴的な形をした銅鏃（どうぞく）  
出土直後は、赤金（あかがね）色に輝いていました。その他に九州・山陽・近畿・東海地方に特徴的な形をした銅鏃も出土しています。



弥生時代後期から終末期の遺構  
(黒い実線部分)



○昨年出土したガラス粒の塊と今年出土したガラス片  
昨年は熱を受けて溶着したガラスの粒（左）、今年の調査では、その素材とみられるガラス片（右）が出土しました。



○土坑の中に廃棄された土器片



○青谷上寺地遺跡で5点目の貨泉



○熱を受けて赤く焼き縮まった焼土面

### ○調査成果

他の地域で製作されたとみられる銅鏃がたくさん出土しました。中国からもたらされた貨泉がみつき、最盛期（弥生時代後期後葉～終末期）の青谷上寺地遺跡が山陰地方を代表する交易の拠点として、他地域と盛んに交流していたことをあらためて確認することができました。

また、たくさんのガラス製玉類とともに、ガラス片や溶着したガラス粒の塊が出土しており、当時、この調査区の周辺でガラスの再加工、玉類の生産が行われていたと考えられます。秀逸な木製容器類とともに、青く輝くガラス製の玉類が重要な交易品として、各地に運ばれていたのかもしれない。